

札幌市医師会

# 北区支部かわらばん

第94号(令和3年5月25日)  
 発行 札幌市医師会北区支部  
 発行人 立花 啓  
 編集 稲場 守  
 印刷所 株式会社アイワード



北区点描：「札幌農学校第2農場：重要文化財」

## もくじ

<ul style="list-style-type: none"> <li>■特集1 新型コロナウイルス その2           <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年11月以降の新型コロナウイルス感染症関連事項について 立花 啓…2</li> <li>・「ハンマー」アンド「ダンス」 池本吉一…11</li> <li>・精神科領域における COVID-19 の影響 中島公博…14</li> <li>・産婦人科領域における COVID19 の影響 佐野敬夫…15</li> <li>・内科診療、新型コロナ感染禍の患者動向など 福島 新…16</li> <li>・COVID-19の経過 その2 稲場 守…20</li> </ul> </li> <li>■特集2 臨床医にきく各科の話題 —その19—           <ul style="list-style-type: none"> <li>・緒言 稲場 守…34</li> <li>・加齢黄斑変性 引地泰一…34</li> </ul> </li> <li>■医政勉強会報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>・第55回「新型コロナウイルスと市立札幌病院の対応」 向井正也…39</li> </ul> </li> <li>■温故知新           <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入会員紹介 ……42</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会員のひろば ……43           <ul style="list-style-type: none"> <li>阿部 法夫 津田 一郎 楠 幸博</li> <li>堀川 敬 服部 晶子 藤井 健一</li> </ul> </li> <li>■各委員会活動報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報企画室報告 ……48</li> </ul> </li> <li>■特別寄稿           <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の道医代議員会発言録 安井隆弘…56</li> <li>・巢籠り生活と YouTube 池本吉一…68</li> </ul> </li> <li>■事業報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度会務現況報告 ……70</li> <li>令和2年度北区支部会計収支現況 ……74</li> <li>令和2年度北区親睦会会計収支現況 ……75</li> <li>令和3年度北区支部事業計画 ……76</li> <li>令和3年度北区支部会計収支予算書 ……77</li> <li>令和3年度北区親睦会会計収支予算書 ……78</li> </ul> </li> <li>■札幌市医師会北区支部役員名簿 ……79</li> <li>■編集後記 ……82</li> <li>■北区点描 ……84</li> </ul>
--	---



## 精神科領域における COVID-19 の影響

五稜会病院

理事長・院長 中 島 公 博

新型コロナ COVID-19 の感染者が日本国内で初めて確認されたのが、令和2年1月。あの頃は、クルーズ船での感染拡大が連日報じられていましたが、対岸の火事といった感じでした。2月には札幌雪まつりを契機に北海道でコロナ陽性者が段々と増えました。精神科病院では、4月に札幌市白石区の医療機関で最初の感染者が確認されました。当時はコロナ陽性者が出ると、病院名が新聞に掲載されてしまい、自分の病院でコロナが発生するのは致し方ないにしても後の順であって欲しいと思っていました。7月末には、札幌市内の精神科病院でクラスターが発生（職員9名、合計33例で収束）。テレビでは連日のように、屋上の病院名の看板が映し出されていて、まるで犯罪でも起こったかのような状況でした。そこまで、報道で映し出す必要があるのでしょうか。いたずらに風評被害をあおっているとしか思えません。コロナの報道によって、患者や職員、その家族にも、「外に出歩くな」、「学校には来るな」など心ない誹謗中傷となり、差別を助長しているのです。

令和2年10月、ついに五稜会病院でも入院患者さんからコロナ陽性者が出ました。入院したばかりの患者さんです。入院翌日に発熱があり、PCR検査で陽性が確認されました。筆者を含めて濃厚接触者の割り出し、PCR検査、スタッフの自宅待機。患者さんは陽性確認の翌日には市立札幌病院に転院となり、結果的には濃厚接触者は全員PCR陰性でした。しかし、外来は電話再診、入院・退院・転棟はストップとなり大わらわでした。幸いにもクラスター発生には至りませんでした。その後も発熱した入院患者さんにはPCR検査を実施し、結果判明までの不安といったら大変なものでした。

北海道精神科病院協会には災害対策本部があり、コロナ関係の情報共有を行っています。令和2年12月まで、北海道内の精神科病院では5件のクラスターが確認されており、2件は100人以上の大型ク

ラスターです。会議ではクラスター発生病院からコロナ感染の実情と対策などが報告されました。こういった情報交換で、新型コロナへの無用な恐怖心が軽減できて、「正しく恐れろ」に繋がります。

北海道では「新型コロナウイルス感染症対策に係る医療従事者等派遣事業」（北海道 COVID-19 支援ナース事業）で、院内感染により医療従事者が感染した医療機関など、感染症に対応する医療機関の業務支援を目的として、応援職員（看護職員）を派遣する事業を行っています。この主旨に賛同して、五稜会病院ではこれまでに、クラスターが発生した精神科病院、介護施設に6名、延べ8件の派遣を行いました。令和3年1月、2月の2回、COVID-19 支援ナースが報告会を行い、クラスターの現場での経験や感染防御対策などのノウハウを職員に伝達しました。手洗い、マスク着用、換気、三密を避けるなどの感染対策の基本を再確認しました。

コロナの時代、精神科の患者さんにも相当な影響が出ています。令和2年4月、5月の学校休校、6月からの学校再開に伴って精神的不調を来している中学生、高校生、大学生がいかに多いことか。オンライン授業でリアルな人間関係が結ばずに困惑している生徒や学生さんも多くいます。夫が在宅勤務となり、ご飯の用意やら自由に過ごすことが出来なくなり息詰まり感を抱いている主婦の方もいます。さらに、令和2年度は自殺者数が大幅に増えました。10代の自殺数も顕著に増えています。

病院経営をみると、令和2年4月5月の診療収入はダイケア、訪問看護自粛で大幅ダウンとなりました。12月には札幌市長から、コロナ陽性者は自院でみてくれとの依頼がありました。自院でコロナ陽性者が出た場合には、軽症例については診療する覚悟でいます。補助金によって各病棟に陰圧室も整備しました。COVID-19はまさしく災害です。自助、共助、公助の精神で乗り切って行きたいと思えます。